

事例

2-2)-18 一気通貫で仕事を任される責任とやりがい

業種

製造業



100人以下

● 家具製造業D社は、もともと都内の家具屋で働いていたb氏が、こだわりの家具を作りたいと独立して設立したオーダーメイド家具メーカーである。現在の取引先は、法人7~8割、個人2~3割で、営業は全てb氏が担当し、社員は職人として家具作りに専念している。

● D社に入社した社員は、まずはお客様の目に触れない部分の加工作業から担当し、徐々に職人としての技術を磨いていく。大手家具メーカーでは、機械化が進んでいるために、社員は1年経っても流れ作業のパートとして一工程を担当し続ける場合があるのに対し、D社では、全ての工程を経験できる。

● 元フリーター社員のmさんにD社でのやりがいをたずねると、「工程の中で頭をどれだけ使うかで、仕上がり・期限が変わってくる。自己責任でやるしか

ないが、その難しさが面白い。」と話してくれた。職業訓練校で木工技術を学んだmさんには、大手家具メーカーに就職した友人もおり、一口に家具メーカーと言っても、自分自身がやってみたい仕事のイメージが明確であったため、D社の仕事のスタイルに非常にやりがいを感じている。

● さらにmさんは、今後のD社の課題として、これから会社の規模が大きくなっていく中で新しく入社してくれる人たちに、D社の仕事のクオリティ・商品の統一感をどう伝えていくのか、という点を挙げてくれた。フリーターだったmさんは、今後のD社の成長を支える貴重な人材となっていくだろう。